傾城水滸傳

文政九丙戌春

新版

二編

壹

へ13
3087
5

へ13
3087
5
特

曲亭馬琴著

傾城水滸傳第貳編

歌川國安画

さ記ふ板せ一初編四冊いら木の扉ぐ字の一の
けいせん塚こあぐ記事ふてまりそのちの
面こく後鳥羽院のゐん付百ひゑし昭菊ぐ流手
至るゆ恋人一をりこれかりて後を三女ぐ日ぐ
さけーるゆ又ぬせ読ころりぐる戸かし出るむ
ゑんあ戸ぐしのさこあおー幾の今ゆるぐらぐ事ス
ゑたうのゐ達ぐ世さのめゑてのゆゆゐるそゆこのひるを
あころてちくてしりくて長者のるさけゆりて三法寺
の妙直大禅尼のゐ子ところりて剃髪得度一名を
妙達とわるこ医のちいくて法ふえゆく寺をさうるぜ
るゆ至れりそれ以て後のるゆこの第三ん冊ふ鏤ゆ一り
初へもゆこの小ゆりる世ふゆゆしるゆいまぐ園一ゐぐりし
ゆたこの達へでゆより後々まぐんてこゆ思ゆるこを希ゆのを

板元　通油町書肆　鶴屋喜右衛門謹白

八百屋の賣物八百色ふ限ぐ学ふむ学者の十千屋さ
語ゆ一ん欲まれゆ駱駝山鶏もてゆりふゆ小ゆ
角紙の下段ものれ家ゆ泰ゆこを好ゆ人ゆ紙之雪も数ゆ
ものを悦ぶ客ゆ棒呑の喉もゆまぐ足ふぐ神事舞のゆるこ雲ふ雀
獨樂より速く藤八五文の考るこ機関泉も終ふ及ぐぐされゆ去
年の流行より今茲の不易ふまここあふぐ野と安ゆ桜木に鳴られ一甲斐も
傾城水滸の初編の評判ゆ
めりまゆふゆ石をこ紙三絃の三ぐ四條こ燈ゆゆるこも氣根こ成ま
夜並仕支も癖の馮ゆるづるけの本店遅ゆ巣ゆぐゆるけれこ鶴
屋ゆ頭を長くして松よ寿く千世萬代春の仕入ゆるこ合一
ゆるだゆく急々如律令ゆ法ゆ嚊見の通ゆ女才ゆるく序ゆ

文政九年丙戌春正月吉日　曲亭馬琴識

蜜が刈る
人聚
友代
野干玉
黒媛
著齋

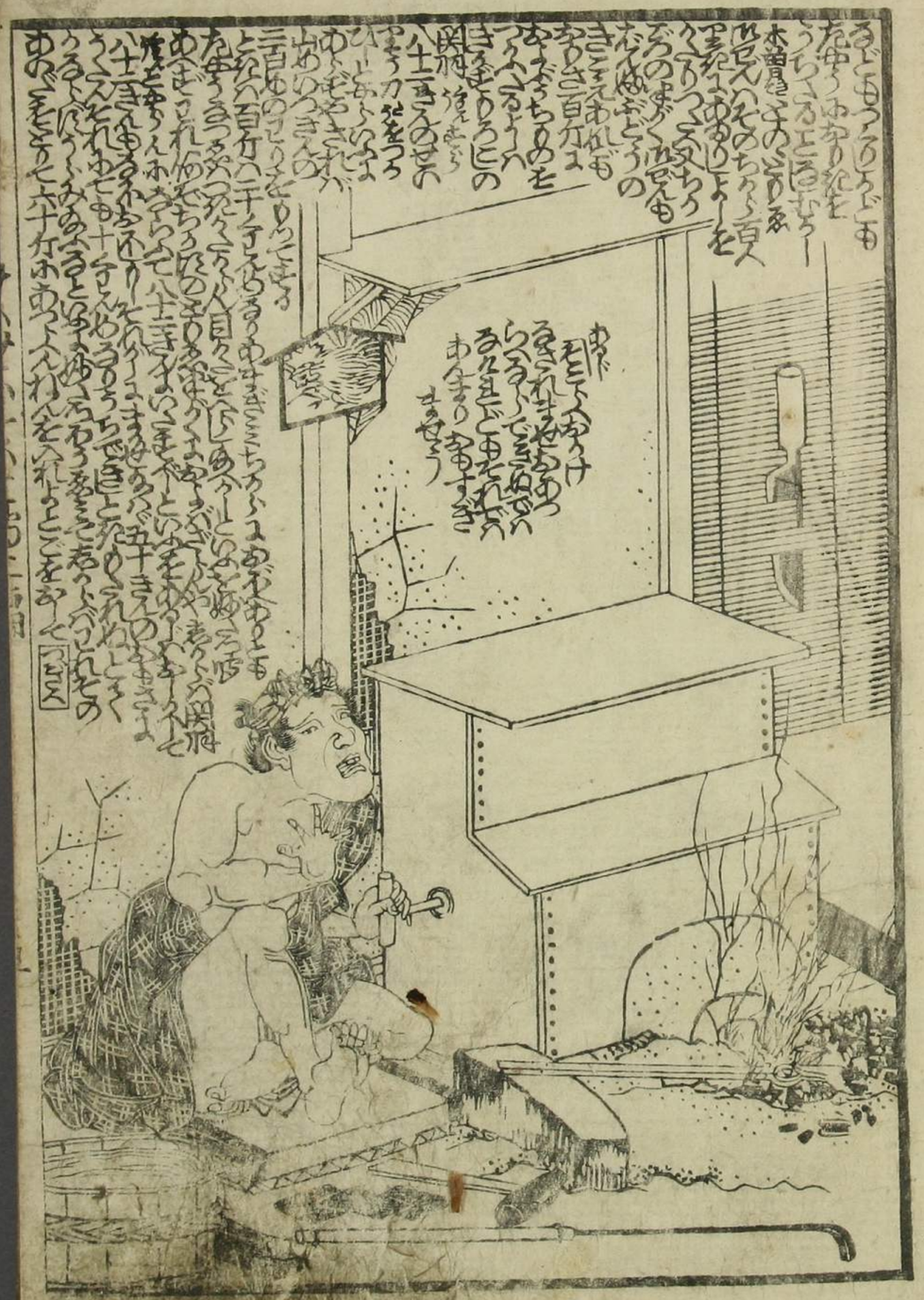
おりひめや質入れ
わらぬ
恋ごろも
うれ名とても
流行ぶり
著作堂
樹郵花松
億乾通
老狗

真琴屋
阿實
目よりえぬこころは
垢乃ともまとおも
うそや人の襟千
はくるむ
簑笠
雑掌
冨安舳大夫

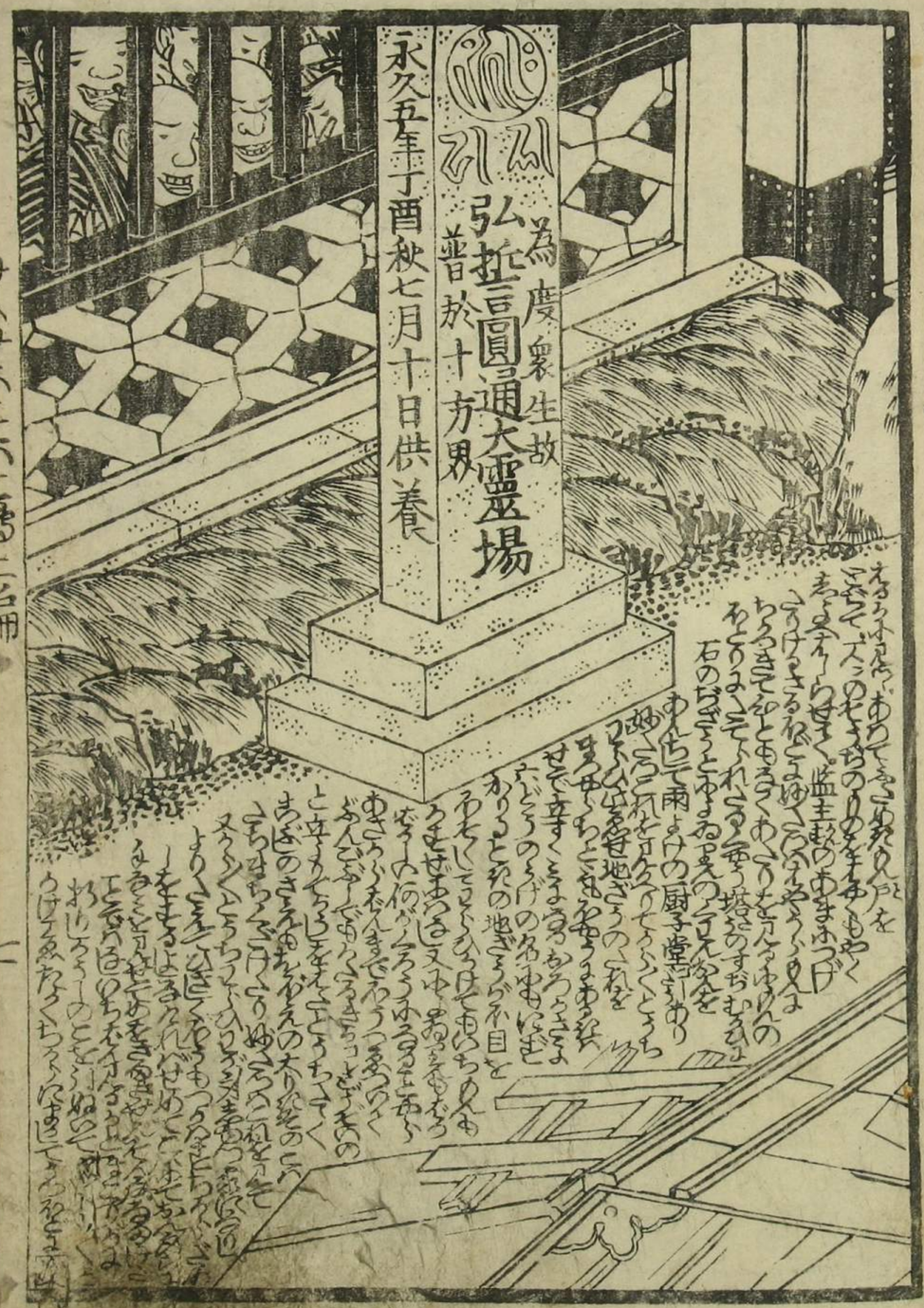
白圭の沙弥軟清
こまも赤ぬこ童平の
名やあんをとやこと
ひとすひとこぬ
艶美僧
狂齋
女醫者
陸船

早蝿
鳴神を送りて
齊第挿を
梵天國土秋を
迎ん
閑斎
假綾桜
赤尾
女金剛禅
岩莫
真琴屋真
伏

あ〻川の
山路も家ゝ
月と日を
何さろよ
おこそ狼
信天翁
樹邨の大刀自
使廳走卒
足高蟇平
使廳
戸陰
走卒
十九郎



名物 おろし汁


為度衆生故
弘誓願通大靈場
普於十方界
永久五年丁酉秋七月十日供養

硯池
宇通保
漢月抄
春曙抄
栄花物語
倉

馬琴作
國安画

けいせい
水滸傳
二編
貳

第貳編之二

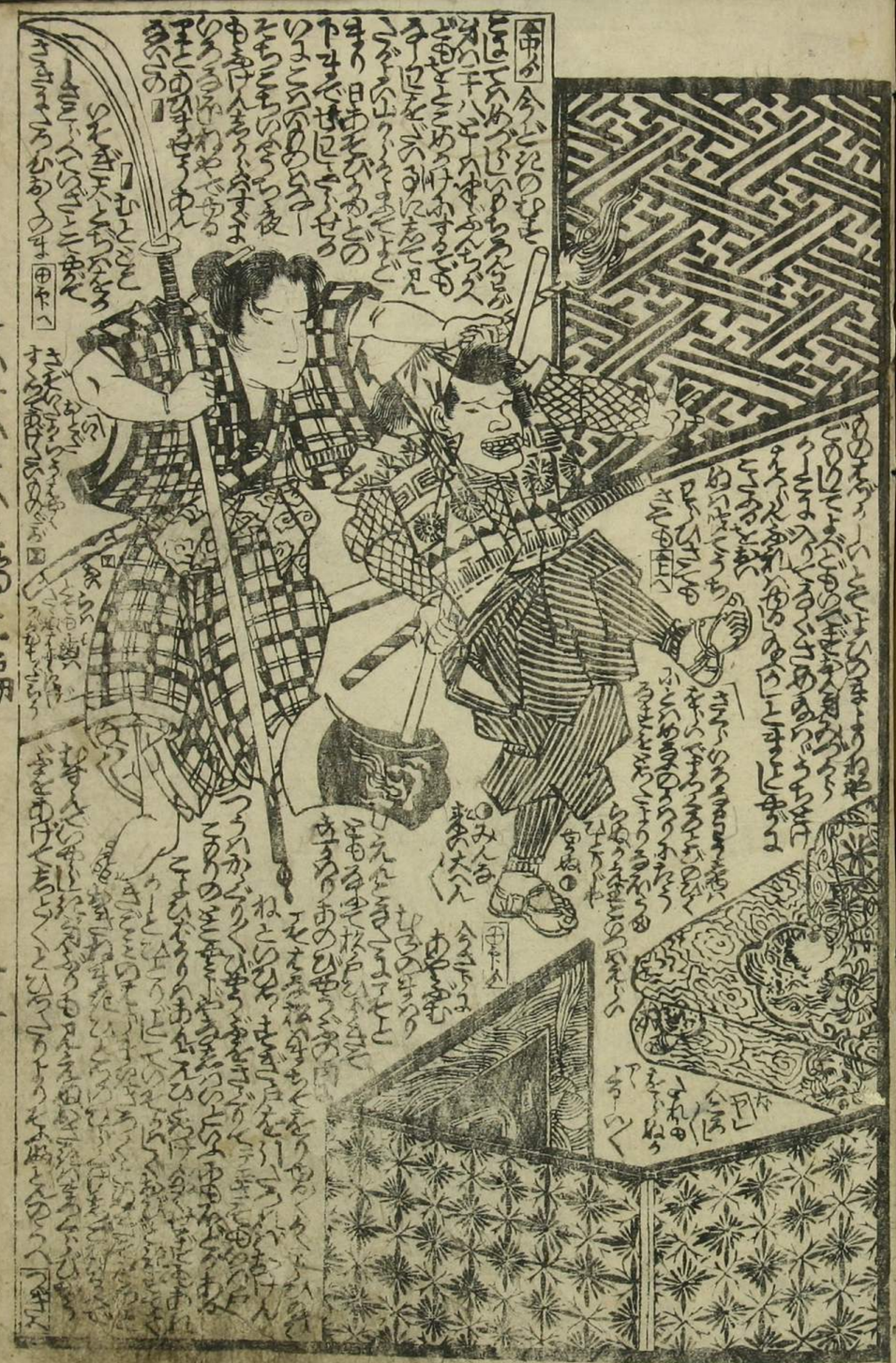
曲亭馬琴著

歌川國安画

文政九丙戌

孟春嗣梓發行

兒仙鶴書



衣
蛇

國安画 馬琴作

家傳神女湯 花海の妙薬一包代百銅
精製奇應丸 大包代弐朱 小包代五ト
能胆黒丸子 多くの効ありて 包代下
婦人玉妙薬 包代三十四文 包三十三文
製薬 江戸神明神下同明町東横町滝沢氏
弘所 元版田中坂下南側四方みな店 向滝沢氏
取次所 江戸芝神明宮三橋子 名古屋
大坂心斎橋筋 西横町 太

文政九丙戌春新版稗史目録

傾城水滸傳貳編 山東京傳作 全八冊 歌川豊國画

情競傾城嵩 坂東秀佳作 全六冊 歌川国安画

絲櫻花本朝女訓 山東京傳作 全六冊 歌川豊國画

福神御利生松金返 南仙笑楚満人作 全二冊

尾上松緑百物語 尾上梅幸作 全六冊 歌川豊國画

新選八義 全二冊 歌川国安画

美艶仙女香 柳亭種彦作 南仙笑楚満人画 世に行る 全六冊

左甚五郎紅絹甚三 當世職人尽 柳亭種彦作 全八冊 歌川国貞画

江戸名所繪尽 團扇地紙問屋 通油町鶴屋喜右衛門板

清川文七 雁金紺屋伊勢 柳亭種彦作 全六冊 歌川国貞画

梅草紙 全六冊 歌川国安画